

講義名	企業論特別講義		
科目区分	特別研究		
担当教員	藤井 啓吾		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

<b>主題と概要</b> 本講義では、様々な業界・企業で活躍しておられる実務家を特別講師として招聘し、経済・経営活動についての現状分析、基本的な考え方、将来展望等に関する講義をいただく。 直接に実社会で活躍される方々と接することにより、勉学の進化を図るとともに、社会人となるための基礎知識や考え方を学ぶ。 また、「講義を聞き、考え、自分なりにまとめる」という体験を通して、社会における学びの方法を知ることを目指す。
--

<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>業界や企業の現状、今後の課題や将来展望、ビジネス社会における心構えなど、実社会・ビジネスの動きや考え方について、実感を持って理解できる。</li> <li>実社会・ビジネスの世界において、社会人に何が求められているのかを認識できる。</li> <li>社会における学びのあり方や姿勢・方法を身につけている。</li> </ul>
--

<b>提出課題</b> 講義日の2日後17：45までに事後レポートを提出すること（提出期日厳守）。
--

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> 提出されたレポートに対する全般的な講評、優れたレポートの紹介などをまとめた文書を配布または RYUKA Portal の「講義連絡」に掲示する。加えて、授業内でも適宜解説する。
--

<b>評価の基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業への参加度・貢献度、授業の理解度（出席、毎回の講義後に作成するレポートの内容、講義での質疑への参加）、受講態度等を総合的に勘案して評価する。合格者内の評価は原則として相対評価とし、受講者全体の GP が概ね 2.0 となるように評価する。</li> <li>※次の者は単位を認めない。             <ul style="list-style-type: none"> <li>5回以上授業を欠席した者。</li> <li>私語、居眠り等、受講態度の悪い者。</li> <li>事後レポート内容が粗悪なもの。</li> </ul> </li> </ul>
---

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別講師や日程は、RYUKA portal に掲示するので常に注意すること。</li> <li>社会人となるにふさわしい態度と心構えで受講すること。遅刻（時間開始後の入室）は認めない。また、私語、居眠り、不要な入退室は、もちろん厳禁である。</li> <li>以上も含めて、講義の進め方や受講ルールあるいは評価方法に関する詳細の説明・確認を初回の授業に行うので、受講者は初回の授業から必ず出席すること（初回講義の出席の有無に関わらず、初回講義に確認・伝達した約束事項は全体の約束事項として適用する）。</li> </ul>
---

<b>教科書</b> ・使用しない。
-----------------------

<b>プリント資料及び参考文献</b> 適宜、配布及び紹介する。
-------------------------------------

<b>授業計画</b> 第1回：イントロダクション（①受講の心構え、②授業内容、ルールの説明と設定、③講義予定企業名・日程） 第2回～14回：特別講師による講義およびその前後に実施する補足講義（※詳細は後期履修登録前に掲示する講師一覧を参照すること） 第15回：特別講義のまとめ
--

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 予習：特別講師による講義に先立っては、事前の補足講義の内容の復習、特別講師の所属企業・業界に関する事前調査などを行った上、特別講師に対する質問を考えておくこと。補充講義に先立っては、事前課題に取り組んだ上で授業に臨むこと。 復習：講義内容を振り返り、自身で調査・考察した内容を含む事後レポートを作成すること。 予習・復習に対する時間配分は、1回の授業につき、予習1時間、復習3時間を自処とすること。
---

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別講師との質疑応答は、様々な業界・企業で活躍しておられる実務家の考え方・生き方を知る上で、またとない機会であり、積極的に取り組んでほしい。</li> <li>補充講義にあたっては、予習した内容の確認、授業内での質疑応答などを目的として respon を利用するので、必ず、利用可能な状態にして授業に臨むこと。</li> </ul>
--

<b>実務経験の有無及び活用</b> 実務経験あり。特別講師は、業界・企業で活躍しておられる実務家の方々であり、言うまでもなく、豊富な実務経験をお持ちである。その豊富な経験を縦横に活用した授業が展開される。
--

<b>備考</b>
-----------